

東日本大震災の被災地で、3週間にわたり停電が続いた後、太陽光発電によって電球1個がとまったときは、うれしくて電気をつけたままみんながそこで眠った。そう振り返る被災者の方の記事を新聞で読み、私はインド赴任中に経験した停電のことを思い出しました。

日中は50度近くまで気温が上がる北インドの酷暑期に、倒木で電線が切れ、2日間停電したことがありました。夜になっても気温は40度を下らず、真つ暗な蒸し風呂のような部屋で一晩を過ごさなければならなかった上、翌朝には、電動ポンプでくみ上げていた水も出なくなりました。仕事で無電化の農村を訪れることがあったので、頼れるのはろうそくと、毎日集めるまきだけ。という生活の不自由さは理解していたつもりでした。しかし、実際に暗闇の中で過ごす不安を味わってみて、電力には物質的な利便さ以上の役割があるということをしみじみと感じました。明かりはまさに、人の心を照らすものだったのです。

明るい光の下での家族だんらんや、子どもたちの勉強、職場での労働負担の軽減、生産性の向上。安定的なエネルギー供給が可能になれば、さまざまな可能性が広がります。それにより、そこで暮らす人々に新たな希望が生まれることでしょう。一方で、限りある資源の有効利用や、環境負荷の軽減といった現代社会が直面する課題に向き合いながら、地球に住む73億人の全ての人々に光を届けるためには、一層の技術革新や工夫、発想の転換がなくてはなりません。

日本には、これまでに培ったクリーンエネルギーや省エネルギーの技術があります。JICAはこれからも、開発途上国のさまざまなニーズに合わせて、日本の技術で未来を照らす明かりを届けていきたいと思っています。

JICA広報室参事役 井本 佐智子

## 本誌へのご意見・ご感想や JICAへのご質問を お寄せください。

プレゼント  
付き

添付のアンケートはがき、Eメール、FAXから、本誌に対するご意見やご感想、またJICAへのご質問を、氏名・住所・電話番号・職業・年齢・性別・ご希望のプレゼントを明記の上、お送りください。ご記入いただいた個人情報統計処理およびプレゼント発送以外の目的で使用いたしません。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

◎応募締切：2017年8月15日

Eメール：jica@idj.co.jp  
FAX：03-3221-5584（『mundi』編集部宛）

- ① シリア難民女性が作った石けん
- ② 書籍『チェンジ～私のウガンダ2000日～』（p37参照）
- ③ 書籍『スマイル！笑顔と出会った自転車地球一周157カ国、155.502km』（p37参照）



①



②



③

本誌をご希望の場合は  
下記方法で  
お申し込みください。

### 申込方法

本誌をご希望の方には、送料をご負担いただく形で送付いたします。巻末の払込取扱票に、氏名・住所・電話番号・ご希望の送付期間・送付開始月を明記の上、指定の金額を郵便局でお支払いください。入金確認後、発送を手配いたします（入金から1週間程度かかることもありますのでご了承ください）。複数冊、またはバックナンバーをご希望の方は送料が異なりますので、下記までお問い合わせください。

申込先 (株)国際開発ジャーナル社 総務部(発送代行)  
住所 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-2-4 麹町HFビル9F  
TEL 03-3221-5583  
FAX 03-3221-5584  
Eメール order@idj.co.jp



次号予告 (2017年8月1日発行予定)

## 空港・港湾

国の玄関口となる空港・港湾。日本はそれらの整備をはじめ、航空管制技術の指導や海図の作成など幅広い協力を通じて、さまざまな国の人の移動や物流を支えてきました。海外旅行者が増える夏休み。あなたが降り立つ空港も、実は日本の協力の現場かも？

**mundi**

JULY 2017 No.46

編集・発行／独立行政法人 国際協力機構 Japan International Cooperation Agency : JICA

〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル

TEL : 03-5226-9781 FAX : 03-5226-6396 URL : <http://www.jica.go.jp/>

バックナンバーはJICAホームページ(<http://www.jica.go.jp/publication/mundi/>)でご覧いただけます。

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。